

## 研修会報告

### 第2回輸血部門研修会

平成25年2月16日(土) 14:00~17:00

TKPカンファレンスセンター 参加者73名

研修内容：講演 輸血後鉄過剰症について

講演 当院での鉄過剰症に対する検査技師の取り組みについて

講演 輸血検査における異常反応の対応法

### 内容報告

近年、輸血後副作用として追加された鉄過剰症について、①臨床について、②検査部門の臨床へのアプローチ、に分けて講演いただいた。

輸血回数を臨床へ通知することにより、鉄過剰症への対応を検査部門から発信することは有用であるといえる。

鉄過剰症のハイリスク群として血液疾患がほとんどを占めるものの、腫瘍内科等他診療科への周知方法について今後検討すべき課題といえる。

輸血検査における異常反応の対応については基礎的部分の理解度は高いものの、応用部分の理解度は低い印象を受けた。応用部分の理解を今後進めていきたい。

### 今後の方針

今後も前半にトピックス、後半に検査を中心とした内容を行う。

今期中は難しいが、可能であれば2期かけて(あと3年)応用部分の理解度を高めるプログラムを構築したい。

文責：学術部輸血部門長 山形 悟

### 第3回血液部門研修会

「血液形態—よめる検査技師をめざして—」

平成25年3月2日(土曜日) 13:30~18:00

仙台市立病院 10階 大会議室 参加者62名

### 研修内容

#### 1. 「小児で遭遇する症例」

宮城県立こども病院 BML検査室 本間 則史 血液部門員

小児特に新生児に関しては、リンパ球優位の血液像を示すが、突然出会う芽球との鑑別や重症化または臨床報告に緊急性を要す疾患について学習した。

#### 2. 「このリンパ球、反応性？腫瘍性？」

仙台医療センター 臨床検査科 伊東 貴美 血液部門員

リンパ球形態の多様性に焦点をしばり、出会いの多くが反応性疾患である中で、稀に遭遇する腫瘍性疾患とのリンパ球形態の違いについて学習した。

#### 3. 「血球減少に出会ったら・・・」

東北大学病院 診療技術部検査部門 鈴木 千恵 血液部門員

血球減少症は骨髄の造血不全または無効造血や治療関連の二次的反応を意味する。CBC で発見されてから、出現細胞を同定し徐々に疾患（病態）を考察していく過程について学習した。

感想

今回の研修会では、事前に基礎データを技師会 HP に紹介し、受講者に学習してから参加して頂く形式をとった。研修会参加は申込み制とすることで、経験年数を加味したグループ作成が可能となり、合計 9 症例についてチームリーダーを中心にディスカッションし、チーム発表・講師のまとめで研修が進んだ。

研修会場はスクリーン 2 方向に投映する事で、全受講者にほぼ満足と思われる顕微鏡下映像を描写する事が可能であった。しかし経験年数の浅い技師の参加が圧倒的に多く、当日回収したアンケートからも①形態の基礎的分類について②正常・異型・異常なリンパの違いについて③細胞異形成について学習したいとの意見が圧倒的に多く、日常血液形態で悩んでいる初級（経験浅い）コースのフォローが必要と実感した。

文責：学術部血液部門長 橋本幸男